

平成22年度 学校評価計画に対する最終評価報告書

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策等)
1 学習指導の充実  分かり易い授業づくりに努め基礎基本を定着する。  授業に生徒が積極的に参加する。  習熟度別少人数指導を活かして学力向上を図る。	研修受講や研究授業・互見授業を計画的に実施して授業力を向上させる。	研修会や研究授業・互見授業で会得したことを自分の授業改善に A：大いに役立てた B：ある程度役立てた C：あまり役立っていない D：役立っていない	A + B = 80%未満の場合は、改善策の実践に努める。	教員アンケート (H22.12 実施) <b>A+B : 80.0%</b> A : 35.0% B : 45.0%	研修会や研究授業・互見授業を実施することによって、授業設計や進め方の優れた点を共有し授業改善に役立てることが出来た。生徒とのコミュニケーションや授業のねらいを明確にすることが大切であり、基礎基本の定着のための「学び直し」とともにさらなる検討が必要である。
	授業で生徒の言語活用力がつく場面を創る。	授業で生徒が活動する機会は A：授業への意欲を高めた B：授業への意欲をある程度高めた C：授業への意欲を高めない D：わからない	A + B = 70%未満の場合は、指導法の改善に努める。	生徒アンケート (H22.12 実施) <b>A+B : 78.3%</b> A : 32.4% B : 45.9%	教科内でワークシートや視覚教材を工夫し、発問・発表する機会、グループ活動など生徒が主体的に活動する場面を増やしてきている。活動を通して授業へ意欲を高めることと、知識・理解の習得を結びつけていくことが重要である。
	授業の理解を深めるために適切・適量の課題を与える。	家庭学習が60分以上の生徒が A：40%以上であった B：30%以上であった C：20%以上であった D：20%未満	C、Dの場合指導の方針を検討する。	生徒アンケート (H22.12 実施) <b>D : 16.7%</b>	全体の平均学習時間は43分であり個々の生徒の学習量には大きな差がある。家庭学習用予習・復習プリントやワークなどの課題、小テストなど個々に応じた課題の内容・量の精選が必要である。学習到達度を認識させるとともに、キャリア教育を通して目標を持たせ生徒の意識を変えていく必要がある。
	習熟度別少人数授業により学力の定着と学習意欲の向上を図る。	習熟度別少人数授業について私は A：研修内容を積極的に実践した B：研修を受け、部分的に実践した C：研修を受けたが実践はしなかった D：研修も実践もしなかった	C、Dの場合研修を生かす指導実践を促進する。	教員アンケート (H22.12 実施) <b>A : 55.0%</b> <b>B : 35.0%</b>	習熟度別少人数の利点を生かし、研修内容などの情報を教科で共有して指導法や教材のさらなる改善を図っていく必要がある。応用クラスでは学習意欲の向上につながっており、基礎クラスでは「学び直し」を意識して基礎力の定着を図っている。
	学習姿勢の向上を目指して保護者にも協力を求める。	子供の学習状況は A：昨年度より良い B：昨年度と変わらない C：昨年度より悪い D：わからない	C、Dの場合取組の方針を検討する。	保護者アンケート (H22.12 実施) <b>A : 67.8%</b> <b>C : 32.2%</b>	約7割の保護者が昨年度より良くなっていると判断しており、本校の取り組みが徐々に効果を表している。特に、三年生では進路希望を目標として学習する生徒が増えた。家庭とも連携し、基本的な生活習慣を定着させることも必要である。
学校関係者評価委員会の評価		・家庭で学習する習慣が身に付いていないことが課題とのことであるが、その実態はアンケート結果からも見てとれる。習慣づけるための指導はたいへんだろうが、社会にでて必要な基礎学力は本校でしっかりつけてやって欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方針		・生徒が学習しやすい内容を授業中に取り入れたり、個々の生徒の学習進度に応じた家庭学習プリントを課題として与えている。 ・放課後や週末に学習できる環境・体制などをさらに整備するとともに生徒個々に合う独自の教材の開発を継続発展させていく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策等)
2 基本的生活習慣の徹底  適切なことば遣いを推奨する。  礼儀作法・コミュニケーション能力を向上させる。  健康で安全な学校生活を推進する。	教員が登校・巡回指導を行い、日常生活についてもきめ細かな指導を行う。	挨拶励行やきめ細かな生活指導で成果が A：大いにあった B：あった C：ある程度あった D：ほとんどない	A + B = 90%未満の場合は指導方針を検討する。	教員アンケート (H22.12 実施) <b>A+B：95.0%</b> A：35.0% B：60.0%	日頃からの地道な指導の効果が明確に表れている。心のこもった挨拶ができるように継続していく必要がある。コミュニケーションを通して教員と生徒との信頼感を大切にし、生徒の存在感のある指導を行う。保護者の90.9%から高評価を得ている。
	ことば遣いやマナーの指導を行い、様々な場面で挨拶を交わす指導を行う。	きちんとした挨拶をし、ことば遣いに注意している生徒は A：90%以上 B：80%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合指導のあり方を検討する。	生徒アンケート (H22.12 実施)  <b>B：89.1%</b>	生徒  良い：41.7% やや良い：47.4% 教員  良い：50.0% やや良い：45.0% 目標の数値は良くなったが、自発的で気持ちの良い挨拶を目指す必要がある。敬語の正しい使い方と、はっきりと話すことの意識づけの取り組みが必要である。
	保護者との連絡を密にして、遅刻を減らす。	遅刻常習・欠席がちな生徒は昨年度より A：半減した B：微減した C：変わらない D：増えた	C、Dの場合指導のあり方を検討する。	生徒アンケート (H22.12 実施)  <b>B</b>	遅刻総数は3年前の25%、2年前の50%に減少している。さらに、学年を追う毎に遅刻数も激減しており、遅刻防止の意識づけに努めた取り組みの結果が表れている。さらには家庭とも連携した組織的な取り組みが必要である。
	部活動の全員加入を推進し、部活動の活性化を図る。	部活動に積極的に取り組んでいる生徒は A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合指導のあり方を検討する。	生徒アンケート (H22.12 実施)  <b>A：72.4%</b>	良い：35.9% やや良い：36.5% 年間を通して約75%の生徒に満足感を得られているが、さらに主体性のある部活動にするための指導が必要である。部活動に対して消極的な生徒に対する対処も必要である。
	生徒理解のための研修等に積極的に参加し、外部相談機関との連携を図る。	心的支援等の研修が参考となった教員は A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合内容を検討する。	教員アンケート (H22.12 実施)  <b>A：95.0%</b>	良い：65.0% やや良い：30.0% 生徒への具体的支援方法を学ぶことができた。スクールカウンセラーの導入により、専門的な助言を生徒・教員が共に得ることができた。さらに、より実践的な心の健康・心的支援を一層推進していく。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導に関する取組の集計結果は高く、上半期より下半期に向けて向上が見取れる。生徒指導の取組を評価したい。人格形成挨拶の実践やコミュニケーション力の育成は社会人になって役に立つ。この傾向を継続されたい。</li> <li>基本的生活習慣の細部にわたって学校が家庭に代わって指導しておられる感もあるが、確実に生徒は成長している。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> <li>「誠実であれ」という校訓を大切にして、日々妥協のない指導を継続していきたい。学校内だけではなく地域との連携や家庭の協力を得て生徒との信頼感を大切にしたい指導をする。</li> <li>生活安全指導・事故防止啓発・服装容儀指導等を今後もきめ細かく実施して進路実現や社会生活に役立つ基盤を形成していく。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策等)
<b>3 キャリア教育の推進と進路実現</b>  キャリア学習を通して進路意識を高める。  各種資格取得を奨める。  就職・進学とも希望進路100%達成を目指す。	企業訪問・大学見学・インターンシップ等を通して進路意識を高める。	学年毎のキャリア学習が進路選択に A：大いに参考になっている B：いくらか参考になっている C：あまり参考としていない D：わからない	C、Dの場合指導のあり方を検討する。	生徒アンケート (H22.12 実施) <b>A：32.8%</b> <b>B：42.2%</b>	2年生のインターンシップへの全員参加や1年生からの企業訪問、上級学校見学など実際に目に触れ経験することで進路意識の向上につながっている。学習内容をさらに充実させるためには事前事後学習にさらに検討を重ねる必要がある。
	資格取得に積極的に取り組み、進路意識を向上させる。	資格取得希望者の延べ合格率は A：60%以上 B：55%以上 C：50%以上 D：50%未満	C、Dの場合補習のあり方を検討する。	生徒アンケート (H23.3 実施) <b>D：40.0%</b>	就職活動、進路意識や学習意欲の向上のためにも資格取得の取り組みや指導力の充実が望まれる。取得件数は昨年度と大きな変化はないが、情報・商業系資格の取得率は高いが漢字検定などの取得率の改善を図る必要がある。
	進路実現を図るために個人面談を効果的に実施する。	面談で十分な進路指針を得られた生徒は A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Dの場合、面談体制を検討する。	生徒アンケート (H22.12 実施) <b>D：63.1%</b>	良い：29.2% やや良い：33.9% 3年生は83%の生徒が進路指針を得られたとしており、生徒の意識向上を図り情報を与えるためにも面談は重要である。さらに、進路中心の面接を充実させるための面接票の導入も検討する必要がある。
	就職希望者の進路実現を100%達成する。	生徒の希望する進路の決定率が A：100% B：96% C：93% D：93%未満	Dの場合、指導と支援のあり方を検討する。	<b>A：100%</b>	早期よりの進路意識向上のための取り組みや、教科指導・学年としての基礎学力の定着・小論文・面接指導など個別指導を中心とした取り組みが効果を発揮し進路決定率100%を達成することができた。就職に関しては就職支援員の配置の効果は大きい。
	小論文指導を充実させて進学・就職試験に対応する確かな力を身に付けさせる。	小論文指導に積極的に取り組めた教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合指導方法の見直しを行う。	教員アンケート (H22.12 実施) <b>B：80.0%</b>	良い：45.0% やや良い：35.0% 小論文に対しては個別指導を中心として丁寧に行われていた。日頃からの常に感想文を書く指導も効果を発揮している。さらに、研修を深め指導力の向上を図るとともに組織力を高めていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・早い段階でほぼ希望通りに就職100%達成や進学決定100%を成就したことを評価する。</li> <li>・模擬面接は校内はもとより、地域や企業の協力を得て早期から計画的に実施することも可能ではないか。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一年生には会社訪問や大学見学を経験させ、二年生全員にインターンシップを通して就業意識を持たせてきている。三年生は具体的な面談を通して進路実現の方策を提示し、時間をかけて進路を開拓している。今後はさらに早期に実施することを考案する。</li> <li>・企業の協力を得て教員が集団で企業に向いて企業研究や就職指導ができるような研修を企画する。</li> <li>・面接練習の内容の充実や、小論文や作文指導に対しても教員が研修を受けるなど手厚い指導を行っており継続発展させる。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策等)
4 <b>地域に信頼される学校づくりと人づくり</b>  広報活動を充実する。  地域社会と連携し地域の教育力を活用する。  身近な環境の美化を推進する。  読書習慣をつける。	P T A 行事をはじめ、各種学校行事への参加を呼びかける。	教育方針や P T A 活動に保護者は A : 大いに満足している B : ある程度満足している C : やや満足している D : 不満である	C、D の場合開催要領について検討する。	保護者アンケート (H22.12 実施) <b>A : 17.4%</b> <b>B : 70.7%</b>	約 90% の保護者の期待に応える結果となっている。昨年度より学校教育や P T A 活動への保護者の意識が高いと思われる。配布物に対する返事の回収率は改善してきているが、発信している内容が手元に届くためのためのさらなる工夫が必要である。
	宝高だよりや各課学年情報を H P でも発信し教育活動を保護者に理解してもらう。	H P で広報を発信した回数が A : 30 回以上 B : 25 回以上 C : 20 回以上 D : 20 回未満	C、D の場合取組について検討をする。	教員アンケート (H23.3 実施) <b>A : 32 回</b>	各課だよりや宝高だより、P T A 会報を掲載して学校行事、部活動など学校内の様子を昨年度より積極的にホームページを利用して発信している。さらに、見やすく充実した内容になるように工夫・改善を図っていく。
	施設訪問やボランティア活動を通して社会参加の意識を高める。	ボランティア活動などを通して社会参加の意識が A : 大いに向上した B : やや向上した C : あまり向上しなかった D : わからない	A + B = 60% 未満の場合工夫・改善を図る。	生徒アンケート (H22.12 実施) <b>A+B : 55.7%</b>	良い : 20.8% やや良い : 34.9% 学校行事や部活動として数多くのボランティア活動や地域連携事業に参加しているが、生徒の意識はまだまだ不十分である。活動内容の吟味や意識の改善を図っていく必要がある。
	清掃活動や日頃の整理・整頓に心がけ校舎内の美化に努める。	教室が整理・整頓されていると感じる生徒が A : 80% 以上 B : 70% 以上 C : 60% 以上 D : 60% 未満	C、D の場合新たな取組を検討する。	生徒アンケート (H22.12 実施) <b>D : 54.7%</b>	良い : 14.6% やや良い : 40.1% 美化コンクールや環境整備委員会を中心とした自発的な美化活動を推進する。ゴミの放置や校舎の汚れはほとんどなく学校全体はきれいに清掃されている。教室内の生徒用ロッカーの整理・整頓など身近な箇所への美化意識が必要である。
	読書習慣の定着を図り、読解力、表現力や豊かな感性を育む	学校での読書活動を通して読書習慣が A : 身についた B : やや身についた C : 少し身についた D : 身につけていない	C、D の場合新たな取組を検討する。	生徒アンケート (H22.12 実施) <b>A : 32.3%</b> <b>B : 38.0%</b>	休憩時間や放課後に本を読んでいる生徒の姿をよく見かける。年 5 週間行われている朝読書の時間が活字や本にふれる機会を与えている。貸し出し冊数も一人 15.2 冊 / 年であり、昨年度より増えている。読む本の内容・種類が今後の課題である。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・宝達高校は勉強以上に人として大切なことを教えてくれて、親代わりの指導をしていただいて感謝している。</li> <li>・教室の整理整頓の意識が集計では低い、高い目標を掲げた結果 D と出ること自体は構わないのではないかと。取組を続けることだ。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事やボランティア部・YOSAKOI 部・野球部・吹奏楽部など部活動の一環として積極的にボランティア活動に参加している。</li> <li>・整理整頓への呼びかけは次年度も生徒が主体になって取り組む体制を継続する。</li> </ul>			